

「キリストの弟子の条件と約束 裏切りの過越し②」

ルカ22:1-35 ルカ22:14-32

■ はじめに

その時、「やりたい」と思うことが閉ざされるということは、私たちに大きな痛みやショックがあります。しかし、後になってみるとその意味がわかる。ということが多くあります。聖書のストーリーはまさしくその連続です。イエスキリストが来られた時、彼らは厳しく叱責され自分達には受け入れられるものではありませんでした。それなので、彼らはイエスキリストを排除しようとしたわけです。そのなかで、彼を信じ受け入れ、相手を変えるのではなく自らを変えようと決断しようと世世に引き継いで来た人たちが今の土台を築いてきたのです。

■ 「変遷」と「変貌」

私たちは多くの価値観を引き継いでいます。子どもは親からどれだけの考え方や間違っただけのものを受け取ってしょうか。その中で、今まで「そうだ」と思っていたことが変わるのですから、「そうではないもの」を言われると受け入れ難いのです。イエスキリストという本当の主を見た時に、今までのやり方を変えることができるのか。できないのか。を戦うストーリーなのです。私たちは今年「変遷」と「変貌」この二つをテーマに学んでいます。

■ 自分が囚われているものは

過越しの食事 大きな罪を犯して神様を裏切り罪の奴隷となった私たちが羊の上に手を置いて神殿で屠って血を流しその羊を犠牲にする。自分の失敗をずっと覚える儀式です。旧約聖書の人たちは自分の失敗を毎年思い起こし、その失敗を羊に転嫁しその羊を殺すことによって自分が失敗したこと罪を負わないように神の前に赦しを得ることが生贄です。しかし、イエスキリストは 2000 年前に十字架にかかってその古いやり方を終えられようと、一度自らがその犠牲の羊となることで、あなた方は二度と「自分はダメなのだ」、「失敗者なのだ。」という考え方を「もう繰り返さなくて良い。」と神様はその取り去ろうとしてくださったのです。私たちはなぜ失敗するのでしょうか？それは心配するからです。私たちは決心したいのです。心に、もう二度と自分の過去を人のせいにして生きるのではなく、自分も人と比較して自分の失敗を悔いない。という本当の十字架の意味を理解して生きていきたいのです。ただの「悔いる」とは「自分はダメだ」と変わらないように洗脳しているだけなのです。「Destiny」という動画の、時計に囚われていた彼は、それを見ないで考えないためにルーティーンを繰り返して安心を得ていたのです。あなたは一体、何を安心の道具にして生きているのでしょうか？あなたは本当に胸に刻んだ十字架を安心の道具にしているのでしょうか？自分が囚われているものは一体なんなのかを考えてみたいのです。

■ ルカ 22:14-32

「王権」人と比較し誰かに支配されるのではなく、自分で自分の道を決めることができる人生になる必要があります。「ふるい」これからたくさんの誘惑があり、私たちはふるいにかけられるが、しかし信じて揺り動かされることなく進むならば、彼はとりなし立ち直ったら力付けてくれるように弁護し守ってくれているのです。

■ 神の計画と人（悪のたくらみ）

- ① 「新しい契約」 新しい契約は、自分の罪を転嫁する必要がありません。古い契約は、自らの罪を思い返しそれを転嫁して誰かに負わせる生き方です。
- ② 「使える者へりくだる者へ」 ピラトは自分の立場を心配していました。ピラトは自分の罪がわかっていませんでした。あなたは本当の自分の罪がわかっていますか。
- ③ 「力づける者へ」 「自分の方が」と思っている時は使えることができません。本当に自分がどれだけ罪があるのかわかった人だけが使えることができるのです。そこまで Understand になった人が人を力づけることができるのです。

■ ヘブル 2:14-15

『2:14 そこで、子たちはみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、2:15 生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。』あの動画の時計の蓋を閉じるためにイエス様は来てくださったのです。あなたの人生であなたが蓋を閉じようとする時にイエス様は後押しをしてくださるのです。同じ肉体を持ってあなたの人生に寄り添ってあなたの人生に解決をもたらそうとしています。

■ Mother's Love

イエスキリストは、母犬が怒られている子犬をかばう動画の母犬のように、とりなしてくれているのです。あなたがしてしまった失敗を覆ってくれて、サタンからの守ってくれて、「大丈夫、私があなたを背負う」と言ってくださっているのです。まだあなたは囚われて生きますか？今週は受難週です。キリストを十字架につけた罪はなんでしょう。それはあなたが囚われていることです。まだあなたは囚われ続けて生きるのですか？イースターをお祝いすると言いながらあなたは変わることを拒むのですか？イースターを祝うことができる人は、イエスキリストと共に復活の朝に自分の過去の考え方ややり方を捨ててあの墓に向かった人々たちです。イエスキリストは最後の食事を彼らとしました。まさしくイースターの前のこの礼拝です。イエスキリストの十字架を知っている人はもはや羊を犠牲にする必要がありません。「自分が罪を犯しました。」と告白すれば良いのです。

■ マタイ 5:3-10

このみことばはまさしく罪がわかった人が言える言葉です。『5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。5:6 義に飢え渇く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。』正しいことができないということがわかるので、正しいことができないことに哀れみ深くなれるのです。人の失敗を言わなくて良くなるのです。

■ さいごに

来週はいよいよ十字架です。この一週間をイエスキリストと過越し、木曜日にイエスキリストと食事をし、過去を断ち切り、そして十字架と一緒に向かっていったクレネ人シモンのように「私もあなたの十字架を負います。」そして、あの100人隊長のように「あの人は本当に神の子どもであった。」そして、あの十字架にかかった一人の男のように「あなたの身位につく時に私を思い出してください。」と自分の考えを置いて言えるならば、そして自分の願いを預けて生き方を彼に委ねるならば、私たちの人生は変えられると信じます。馬小屋から十字架に至る道がここで完成します。そして彼が再び来るまでそれを保つてと言われています。みなさんは本当に今あなたの中でそれを保っていますか。「毎週やってくる日曜日」それではなんの意味もありません。それを壊さなければ十字架は訪れないのです。是非、一緒にそれを壊して十字架に向かうことができるように祈りたいと思います。私は自分を守ることに囚われ、人や状況のせいにしてばかりで自分の罪を見ることができませんでした。でも、イエス様がいつも私たちをとりなし守ってくださっているのです。自分が囚われていたプライドを捨ていつもイエス様と共に歩みます。

(要約者:澤口 建樹)

(2024年3月24日)